H30.08
第 167 号

亀さん通信

朝晩に秋の気配を感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか？
亀のように歩みは遅くとも、**『お金力』**をしっかり、確実に身につけていただく**【亀さん通信】第 167 号の**発信です！

江戸時代と現代、あなたはどっち？

「日本は長寿」というイメージがあるかと思いますが、実のところ長寿国になったのは最近のこと。日本人の平均寿命が 50 歳を超えたのは、戦後の 1947 年になってからなのです。その後、急速に進展した長寿化は、人々の価値観や老後の人生設計に大きな影響を及ぼしました。今回は、長寿化の歴史を振り返りながら、**自身の老後**に思いを馳せてみましょう！

まずは江戸時代の話からはじめましょう。当時の子どもが 7 歳まで生きられる確率をご存知ですか？正解は、**約半分**です。つまり半分は生き残って、半分は亡くなったということ。戸籍制度が整備されておらず、正確な数値は把握できませんが、江戸時代全般を通じてその程度だったようです。現代のように発達した医療や予防接種があるわけでもなく、ちょっとした風邪でも命取りでした。当時の感覚を物語る言葉があります。**「7 歳までは神のうち」**。乳幼児はあまりにもあっけなく亡くなってしまうため、数え年で 7 歳になって、ようやく人間社会の存在として数えましょうという意味。ちなみに子どもの健やかな成長を祝うある行事が江戸時代に始まりました。それは「七五三」。当時の七五三は、現在の形式的なお宮参りではなく、ずっと重い意味があったわけです。

では、時計の針をしばし進めましょう。現在のような形式での人口調査が実施されるようになったのは、明治 32 年（1899 年）から。初年度の乳児（生後 1 年未満）死亡率は 153.8/1,000 人。**10 人のうち 1.5 人が 1 年以内に命を落とした**わけです。時代は明治に変わりましたが、天然痘、はしか、コレラ、インフルエンザなど、今もある病気に対して当時の乳児は残念ながら無力でした。育児環境が良くなって死亡率が 100/1,000 人以下になったのは、第二次世界大戦の少し前で、10/1,000 人を切ったのは昭和 51 年のこと。そして現在では 2/1,000 人に至り、**世界最良の水準**を誇っています。

最新のデータによれば、七五三どころではなく、20 歳までに亡くなる確率は、ざっくり 200 人に 1 人。そして 60 歳までに亡くなる確率は、男性が 100 人中 7 人、女性が 100 人中 4 人。では、江戸時代には 7 歳までに約半分、即ち 100 人のうちの 50 人が亡くなる年齢というのは何歳でしょうか？ その答えは、**男性が 85 歳**、**女性はなんと 91 歳**！当然ながら、この年齢までは約半分が生き残っているということ。実に驚くべき数値だと思いませんか？20～30 年前までは 90 歳といえば、かなりの長寿だったのですが、それがもう当たり前になっているようです。

日本で国民皆年金が実現したのは昭和 36 年。その当時の 65 歳の平均余命（ある年齢の人々がその後生きられる平均の年数）は、男性が 11.88 年、女性が 14.1 年。ところが、現在では男性が 19.57 年、女性が 24.43 年。寿命の伸長、高齢化率の上昇など、**年金制度がさらに疲弊**していくのは誰の目にも明らかでしょう。平均寿命（0 歳時における平均余命）が 30～40 歳だったといわれる江戸時代、男性が 81.09 歳、女性が 87.26 歳と世界に冠たる長寿国となった現代。どちらに産まれる方が幸せだったのか？この国の先行きを憂う情報に接するたび、考え込むことがあります。とはいえ、生きていかねばなりません。過酷な現実から目を逸らさず、国に自分の人生を委ねず、**ほぼ確実に訪れる長い長い老後**に備えて、自助努力していきましょう！

夏休みが終わる頃になると、もの寂しい気分になるなぁ…

㈱亀山保険事務所　亀山裕弘（ﾐﾁﾋﾛ）　1 級ﾌｧｲﾅﾝｼｬﾙ･ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ技能士　0575-28-2768　info@kameyama-hoken.com